

「世界の国々」の学習の評価

山形市立第七中学校 小林敏洋



1 はじめに

地理学習の指導内容が大幅に改訂されたことにくわえ、いわゆる「絶対評価」による評定が導入されたことなどから、評価をめぐる課題が山積し、評価に対する迷いや戸惑いが広がっている。

しかし、これまでも授業の評価は行われてきており、楽しくわかる授業に心がけ、授業を通して生徒の変容のようすを見取り、評価していくという基本は何も変わってはいない。

このところ、評価の規準づくりや評価の方法がクローズアップされているが、「指導と評価の一体化」といわれるまでもなく、評価の改善をすすめることは、すなわち、どんな授業を仕組んでいくかということと裏腹の関係にあることを念頭にこの問題に対応していきたい。

2 単元の評価規準の作成

「どの単元で」、「どの観点項目を」、「どんな活動で」評価していくのか、全体のアウトラインが見通せていないと、評価がその場その場の思いつきに陥りやすい。

そこで、年間の指導計画をどう設定するかが評価のポイントとなってくる。本校では、地理的分野と歴史的分野の学習を小単元ごと交互に行っているが、次の資料1は、2学年社会科の年間指導

計画のうち、「世界の国々」の観点別評価規準を示したものである。作成にあたっては、できるだけ授業の展開を具体的に示すため、教材や作業内容を想定しながら規準づくりをすすめている。

関心・意欲・態度の項目が「中国」と「アメリカ」で一つの枠に示されているのは、両単元で取り扱う社会的事象を、「人口」・「家族のあり方」に焦点化し、ほぼ同様の構成になるよう設定したためである。授業ではVTRを活用し、中国の「一人っ子政策」とアメリカに広がりつつある「新しい形態の家族」を対比させることにより、世界の多様性や日本との違いに気づかせたいと考えた。また、両国の国土の形状をフリーハンドで描かせる作業も共通化している。

3 授業の実際と評価の方法

1) 関心・意欲・態度の評価

資料2は、おもに社会的事象への関心・意欲の評価の材料とするために、「アメリカ」のまとめで行った作業について、ある生徒の反応を示したものである。

同様の作業を、中国の学習でも行っている。中国、アメリカ、それぞれ5時間だけの授業ではあるが、授業への関心・意欲の違いにより国土の形状に大きな差が生じてくる。

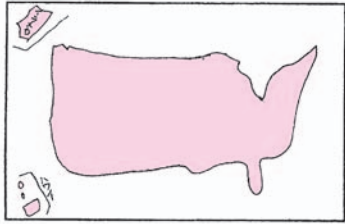
この作業の結果は、地図の善し悪しだけを評価

資料1 2学年社会科「世界の国々」の評価の規準

題材	時間	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用技能・表現	社会的事象についての知識・理解
世界の国々 1 中国	5	・中国の「一人っ子政策」とアメリカに広がる新しい家族の形態のVTを視聴し、世界の多様性に関心を高め、個人と国家・社会のあり方について意見をもつことができる。	中国で人口移動が急激に進んでいるわけを、中国の経済発展の動きから考察することができる。	統計資料を活用し、中国の人口分布や工業生産が、地域によって大きく偏っていることに気づき、そのようすを図に表すことができる。	中国の人口分布、地形、気候の特色をおおまかに理解するとともに、国家的規模の国の調べ方の視点や方法を身につけている。
世界の国々 2 アメリカ合衆国	5	・中国、アメリカの国土の形状をフリーハンドで描き、学習の前後における変化を確認することができる。	アメリカで、企業的な大規模農業や先端的な産業が発展してきた理由を、アメリカの歴史、自然条件、人種・民族の多様性など、多角的な視野から考察することができる。	VTRや統計資料などを活用し、世界的な規模で展開するアメリカの経済や産業のようすを調べ、その特色を図やグラフなどにまとめて表現することができる。	アメリカの国土、人口構成、産業の発展などの特色をおおまかに理解するとともに経済的に豊かな国の調べ方の視点や方法を身につけている。

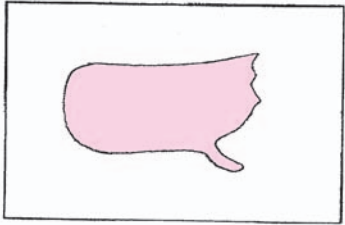
学習後まとめの時間に描いた地図

1 アメリカ合衆国の国土の形のイメージを図に描いてみよう。



学習前の導入時に描いた地図

2 はじめの地図と比べて、気づいたことをまとめなさい。



気づいたこと：五大湖を意識してかけるようになった。アメリカの形が前よりも地図らしくなってきた。アラスカやハワイもだいたいかけるようになった。.....

の基準としているわけではない。地図のできればえは知識・理解の評価に反映させているが、関心・意欲が高い生徒の地図は、変容の度合いが著しい場合が多く、関心・意欲を評価する材料として有効である。また、地図を比較して気づいたことを記述させる欄は、表現力のほか、地理的な見方・とらえ方をみるうえで参考となる。

2) 資料活用の技能・表現力の評価

資料3は、統計資料の処理技能や表現力を把握

資料3 学習プリント 作業「アメリカ合衆国の州別製造品出荷額」

- ◆ 右の資料から、州ごとの製造品出荷額の分布図をつくってみよう。
□：1000億ドル以上 □：500～999 □：500億ドル未満



- ◆ 出荷額の多い地域をあげ、地図帳P44の②からその地域で生産がさかんな工業製品をあげてみよう。

	①	②	③
主な工業製品			

アメリカ合衆国の州別製造品出荷額(1995年)

州名	製造品 出荷額 (億ドル)	州名	製造品 出荷額 (億ドル)
アイオワ	590	ニューハンプシャー	154
アイダホ	165	ニューメキシコ	126
アーカンソー	429	ニューヨーク	1629
アラスカ	40	ネバダ	54
アラバマ	655	ネブラスカ	244
アリゾナ	352	ノースカロライナ	1527
イリノイ	1931	ノースダコタ	44
インディアナ	1309	バージニア	758
ウィスコンシン	1096	バーモント	89
ウェストバージニア	178	ハワイ	34
オクラホマ	332	フロリダ	736
オハイオ	2229	ペンシルベニア	1649
オレゴン	423	マサチューセッツ	753
カリフォルニア	3488	ミシガン	2040
カンザス	428	ミシシッピ	395
ケンタッキー	794	ミズーリ	826
コネティカット	441	ミネソタ	694
コロラド	375	メイン	145
サウスカロライナ	669	メリーランド	345
サウスダコタ	92	モンタナ	49
ジョージア	1120	ユタ	201
テキサス	2651	ルイジアナ	745
テネシー	962	ロードアイランド	101
デラウェア	145	ワイオミング	27
ニュージャージー	924	ワシントン	691

3) 評価問題

授業場面での評価の方法を多様化し、多角的な視点から評価をすすめる一方、中学校では定期的の実施している評価テストの問題をどう作成するかは、避けて通れない大きな課題である。とりわけ、「学び方を学ぶ学習」の充実が求められている今日、その作成にはかなり苦慮しているのが実状である。

資料4は、本校の2学年1学期期末テストの出題例である。問1は基本的な知識・理解を、問2・問3は資料の活用能力を、問4では思考力、表現力を問う出題とし、問5は、総合的に資料の活用能力、思考力、表現力を問うたつもりである。とくに、問5は、前述の資料3の作業を踏まえて出題している。

出題にあたっては、教科部会で問題を検討しあい、次のことがらに留意し作成している。

- ①学習指導要領を踏まえた出題
- ②学習したことに基づいた出題
- ③思考力・判断力を問う出題（覚えていなくても思考・判断できる問題の工夫）
- ④資料活用・表現力を問う出題（覚えているだけでは答えられない問題の工夫）

4 おわりに

絶対評価の導入により、評定の低さが授業者の指導力の不足ととられかねないため、高めに評定する傾向があることが懸念されている。

評価の問題は、蓄積した評価の材料からいかに評定するかではなく、蓄積すべき評価の材料の妥当性、信憑性を高め、評価に対する生徒や保護者からの信頼をいかに得ていくかが、より本質的な課題であることを見失ってはならない。

資料4 2学年1学期期末テストの出題例

図1 次の表は、アメリカ合衆国をA～Dの4つの地域に区分し、特色をまとめようとしたものです。右ページの資料は、まよめの参考にしたデータです。あとの問に答えなさい。

地域	地域の特色
A 太平洋岸	・南北に①山脈が走っている。 ・工業都市のほか、映画産業や人工的につくられた娯楽産業の都市などがある。
B 西部	・中央部をミシシッピ川が流れている。 ・センターピットとよばれる円形の耕地が西部に多くみられる。
C 南部	・南側は②湾に面している。 ・石油資源が豊富で、サバンナとよばれる新しい工業地域が形成されてきている。
D 北東部	③

アメリカ合衆国の4区分

図2 右ページの資料1と州名の地図を参考にして、次の問に答えなさい。

- アメリカ合衆国で最も面積が広い州を答えなさい。
- A～Dのうち、人口密度が1.0（人/㎢）をこえる州が多く、人口の集中が最もみられる地域を一つ選び、記号で答えなさい。
- A～Dのうち、農業生産額が40億ドルをこえる州が最も多く集中している地域を一つ選び、その地域で農業がさかんな理由を、その地域の自然条件から説明しなさい。

問3 宇宙産業や航空機、コンピュータなどの先端産業がさかんなロサンゼルス、サンフランシスコなどの工業都市があり、製造品出荷額も多くなっている州の州名を書きなさい。

問4 他の地域の特色のまとめ方を参考にして、Dの③に、この地域の自然や産業、歴史などの特色を書きなさい。

問5 右ページの資料2は、各州の中心都市の年間降水量が500mm以下の州を示したものです。

- 右の地図に、資料2で示された州を黒く塗り、その分布図を完成させなさい。
- 完成した分布図から、アメリカ合衆国の降水量についていえることを書きなさい。

州別の年間降水量が500mm以下の州

資料1 アメリカ合衆国の州別人口密度・製造品出荷額・農業生産額(1995年)

州	人口密度 (人/㎢)	製造品出荷額 (億ドル)	農業生産額 (億ドル)	人口密度 (人/㎢)	製造品出荷額 (億ドル)	農業生産額 (億ドル)	
アイオワ	20	300	74	ニューハンプシャー	48	154	1
アイダホ	5.5	185	21	ニューメキシコ	5.4	128	5
アーカンソー	18	429	28	ニューヨーク	130	1620	10
アラスカ	1.6	40	0.2	ネバダ	5.6	54	1
アラバマ	32	655	8	ネブラスカ	3.2	244	42
アリゾナ	15	382	13	ネブラスカロライナ	54	1527	34
イリノイ	28	1931	19	ノースダコタ	3.5	64	30
インディアナ	62	1304	37	バージニア	61	758	9
インディアン	30	1095	18	バーモント	24	86	1
ウェストバージニア	29	178	0.8	ハワイ	71	34	4
イオウワ	18	332	11	コロラド	33	730	49
イオバ	38	229	32	ペンシルベニア	101	1569	13
オレゴン	18	423	23	マサチューセッツ	254	750	4
カリフォルニア	78	3488	171	ミシガン	38	2040	22
カンザス	12	428	33	ミシシッピ	22	395	15
ケンタッキー	37	794	18	ミズーリ	30	805	28
コネチカット	228	441	8	ネブラスカ	211	804	46
コロラド	14	375	15	メーン	14	145	2
サウスカロライナ	46	660	9	メリーランド	159	345	6
サウスダコタ	3.7	92	21	モンタナ	2.3	49	12
ジョージア	48	1130	24	ネダ	9.1	201	2
サウス	28	2051	63	インディアナ	34	745	17
テキサス	49	962	14	ロードアイランド	310	101	0.7
デラウェア	117	145	2	ワイオミング	1.9	27	2
ニュージャージー	375	924	6	ワシントン	30	691	40

資料2 州別の年間降水量が500mm以下の州

州	年間降水量 (mm)
ネバダ	99
アリゾナ	197
モンタナ	258
ワイオミング	267
アイダホ	307
ニューメキシコ	352
コロラド	392
ノースダコタ	397
ユタ	412
カリフォルニア	445

参考 東京・上海の年間降水量
 東京 1405mm
 上海 1110mm